

ネットコンファレンスの日時、場所、出席者、説明者他：

日時	2021年2月9日 16:00～17:00
説明者	コーポレートコミュニケーション部 IR グループリーダー 小池 太郎
説明資料	2020年度第3四半期決算の概要 及び 2020年度業績予想の概要

Q&A

■モビリティセグメント

Q1. モビリティの20年3Q（10-12月）から20年4Q（1-3月）にかけての売上収益増収となる要因について説明して欲しい。

A1. 需要堅調に伴う販売の回復傾向に加え、原料価格上昇に伴う価格改定への影響を見込んでいます。

Q2. 海外 PP コンパウンドの20年3Q（10-12月）の販売数量の動向につき、19年3Q（10-12月）との対比を地域毎に説明して欲しい。

A2. 19年3Qとの対比では、グローバル（全体）で増加しました。地域毎には北米、欧州、アジアの3地域で増加、南米は減少しました。

Q3. 海外 PP コンパウンドの20年2Q（7-9月）から20年3Q（10-12月）、及び20年4Q（1-3月）にかけての動向につき、地域毎に説明して欲しい。また、半導体不足による販売への影響はどの様に見込んでいるのか説明して欲しい。

A3. 2Qから3Qへはグローバルで10%強増加しました。地域毎にはASEAN、欧州、インドを中心に販売は増加しました。北米、中国は2Q並みに堅調に推移しました。4Qの販売数量は、3Q並みで見込んでいます。半導体不足の影響は現時点で大きな影響を見込んでおりませんが、本課題が長期化するリスクも含め引続き状況については注視していきます。

Q4. モビリティのICT分野におけるアペルの販売動向、EUVペリクルの計画について説明して欲しい。

A4. アペルの販売は引続き堅調に推移しています。EUVペリクルは計画に変更はございません。
(20年度4Q完工、21年度2Q営業運転開始)

■ヘルスケアセグメント

Q5. ヘルスケアの20年2Q（7-9月）から20年3Q（10-12月）、及び20年4Q（1-3月）の動向について説明して欲しい。

A5. 2Qから3Qにかけてビジョンケアで上期からの反動を受け大きく販売が増加しました。不織布は、新型コロナウイルスによる影響が緩和していく中減販となっています。歯科材料の販売は増加してきています。

3Qから4Qにかけては、各事業とも減益を見込んでいます。ビジョンケアは在庫調整も含め減販を見込んでいます。北米リテーラーとの取組状況については開始したばかりであり、今後本格的に増加していく見込みです。不織布は、引続き減販傾向となっています。歯科材料は、販売は増加するものの、事業活動正常化に伴うコスト増加を見込んでいます。

Q6. 欧州を中心に新型コロナウイルスの影響が心配されるが、各国ロックダウン等によるヘルスケアの20年4Q（1-3月）の影響はどの様に見込んでいるのか。

A6. 新型コロナウイルスの影響については、予断は許さない状況ではあるものの、1Qほどの大きな減販とはならないと見込んでいます。

■フード&パッケージングセグメント

Q7. 20年3Q（10-12月）のフード&パッケージングについて、農薬が不需要期であることを考えると高い利益水

準となっているが、その背景について説明して欲しい。

A7. 産業用フィルムのイクロスの販売が堅調であることに加え、海外農薬が増加しました。

Q8. イクロスの販売動向について教えて欲しい。

A8. イクロスについては、活況な半導体市場を背景に販売は堅調に推移しています。

Q9. 今後需要増加が見込まれるテネベナールにつき、増設の必要性も出てくると思うが、検討状況を教えて欲しい。

A9. 需要動向をみながらタイムリーに対応できるように検討を進めています。

■ 基盤素材セグメント

Q10. 基盤素材における前回予想値から 170 億円の増益について要因別に説明して欲しい。

A10. フェノール類の市況改善、市況改善による持分法投資損益の改善、石化市況の改善、販売数量増加、ナフサ価格上昇による在庫評価損及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響の縮小により増益を見込んでいます。

Q11. 基盤素材 20 年 2Q (7-9 月) から 20 年 3Q (10-12 月)、及び 20 年 4Q (1-3 月) にかけての動向につき要因別に説明して欲しい。

A11. 2Q から 3Q にかけては、フェノール類の市況改善、ポリオレフィンを中心に販売の増加、定修明けによる固定費の減少により増益となりました。

3Q から 4Q にかけては、市況改善による持分法投資損益の改善、在庫評価損及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響により増益を見込んでいます。一方、IFRS 会計基準により租税公課の計上時期が 4Q へ変更、及び修繕費や撤去費のコストが増加することにより、減益を見込んでいます。

Q12. 下期の基盤素材のクラッカー、フェノール、ポリオレフィンの稼働率について教えて欲しい。

A12. 3Q、4Q 共にいずれのプラントも高い稼働率を維持している。

■ 全社

Q13. 20 年 3Q (10-12 月) のコア営業利益 336 億円は水準が高いように見受けられるが、特殊要因も含め各事業の動向を説明して欲しい。また、20 年 4Q (1-3 月) の利益計画についても説明して欲しい。

A13. モビリティは自動車生産台数増加により順調に回復してきています。ヘルスケアは、ビジョンケアでの上期販売減からの反動を受け販売が増加しました。フード&パッケージングは、産業用フィルムのイクロスで 2Q から 3Q に販売が増加しました。基盤素材は、需要が堅調な中、海外でのプラントトラブルや新規プラント稼働遅延により、海外市況が高騰しました。

4Q にかけては、成長 3 領域で引続き販売は堅調に推移するものの、3Q に大きく増販した製品については一部販売調整が織込まれています。また、事業活動の正常化によるコストの増加も織込んでいます。基盤素材は、引続き海外市況は高く推移すると見込んでいます。

Q14. 新型コロナウイルスによる影響について教えて欲しい。

A14. 減益方向ではモビリティと基盤素材を中心とした減販影響となっています。増益方向では消毒用途特需によるアセトン市況改善、事業活動縮小による固定費の減少が考えられます。また、コロナ影響による不織布でのマスク及び医療用ガウンでの需要増加による増益も一定程度含まれていると考えます。

Q15. 非経常項目に構造改善費用を計上しているという事だが、構造改善の進捗状況につき説明して欲しい。

A15. 引続き検討中です。

以上